



## オオハンゴンソウについて

皆さんはこの花を見たことがあるでしょうか。きっと誰もが見たことがあると思います。夏になると道ばたにたくさん咲いているヒマワリのような花、「オオハンゴンソウ」です。アメリカ原産で、自然生態系の中ではとても恐ろしい植物と考えられています。一端この花が増え始めると、他の植物は生育できなくなり、辺り一面、この



植物だらけになってしまうのです。背丈が高い草なので、他の植物を被圧してしまうことと、根から特殊な物質を出して、他の植物の種の発芽を抑えてしまう作用があります。このような効果を「アレロパシー」と呼んでいます。このため、環境省では特定外来生物に指定して、注意を促しています。

青森県では30年ほど前から急激に増え始め、今では全県的に広がっていますが、南部地方、下北地方で特に大群落となっています。地下茎（根）と種子で増えるので、花が散って種子ができる前に、根っこごと抜き取る方法がこの花を減らす最も効果的な方法と考えられます。除草剤も効果はあると思いますが、その他の植物や周辺環境への悪影響が心配されます。花がきれいなので、場所によっては刈り取らず、わざわざ残しているところもあります。しかし、放っておくとこの花だけになってしまい、もともとその地域に生育していた植物がなくなってしまうことが大きな心配です。労力はかかりますが、健全な自然を守るためには地道な活動が必要です。

(教頭 奈良岡隆樹)